

「いのちの水が、豊かに湧き出るお茶の水」



元インマヌエル王子教会 牧師

三森春生

4月は日本の年度初め、ことに教育機関はほとんどが、4月に入学・新学年が開始されます。今でこそ大学の都心離れで、学校数も学生数も減りましたが、それでも予備校があり、古書店街や楽器店・スポーツ用品店がひしめくお茶の水界隈には、多くの若者が集まって来ます。4月には、それこそ「ピカピカの一年生」ではありませんが、新入学の大学生と見受ける若い人々の姿が多くなります。

TPCが置かれているOCC（お茶の水クリスチャンセンター）ビルは、元々は「お茶の水学生基督教会館」として発足しました。この土地が福音宣教の基地として入手される2年前の1947年9月、OCCに隣接する現「新駿河台ビル」の場所にあった政経ビルの3階会議室で、毎週土曜日の夕方、現役クリスチャン大学生による伝道集会が始まりました。会議室

の北側の窓の下には、広い庭のある大きな邸宅が見えました。あんな所に学生伝道の拠点があったらいいね、という希望が祈りになり、当時協力してくださった老婦人宣教師が真剣に受けとめ、祈りの輪は世界に広がり、やがて実現したのが今日のOCCであり、それと相呼応して成長したのがKGK（キリスト者学生会）です。KGKは今年で69年、OCCは67年の歴史を重ねますが、お茶の水は文字通り、キリスト教のセンターとなっています。都内には明治のころから築地や銀座にキリスト教のセンター的な施設があり、戦後は早稲田にもできましたが、お茶の水の特色は、福音派が中心になっていることでしょう。

昔、茶の湯に適した泉が湧いたので名付けられた「お茶の水」が、福音の泉が豊かに湧き出るセンターとして今後も生かされ、加えてTPCの存在が、祈りのセンターとしての役割を果たすことで、その意義が一層深められるよう期待します。

TPCの活動目的

- (1) 閉塞感のある日本のキリスト教会に元気を与える
- (2) 超教派として活動する
- (3) 毎日、礼拝を捧げ、祈り会を行う
- (4) 伝道、学びなどのために貸室を提供する